

令和6年度 第1回 美里町地域公共交通活性化協議会資料

美里バスの利用状況と課題

令和6年7月

美里町地域公共交通活性化協議会

1 美里バス利用者数の推移

- 美里バスの利用者数は、令和 1 年度の 192.3 人/月をピークに、コロナ禍により大きく減少しました。
- コロナ禍においては、令和 4 年度までは緩やかに増加形傾向を示していましたが、令和 5 年度からは減少に転じており、令和 6 年度は 4～6 月の 3 か月のデータではありますが、利用者数が 85 人/月とコロナ禍直後の令和 2 年度 106 人/月を大きく下回っています。
- 令和 5 年度における月別の利用者数をみると、月による変動が大きく、4 月、6 月、9 月、10 月は 120 人/月を超えているのに対し、7 月、8 月、12 月、1 月は 100 人/月を下回り、特に 2 月は 55 人/月と年平均 115 人/月の半分と非常に少なくなっています。

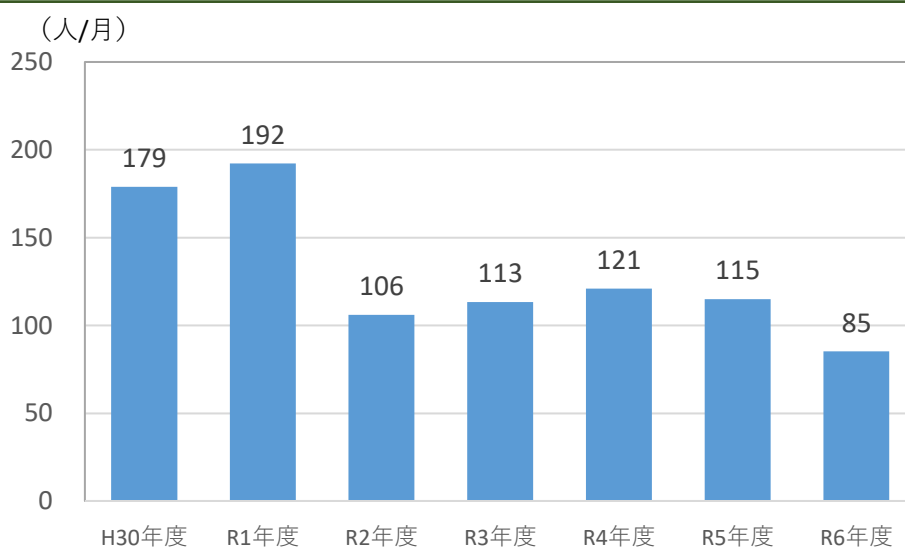


図-1.美里バス利用者数の推移

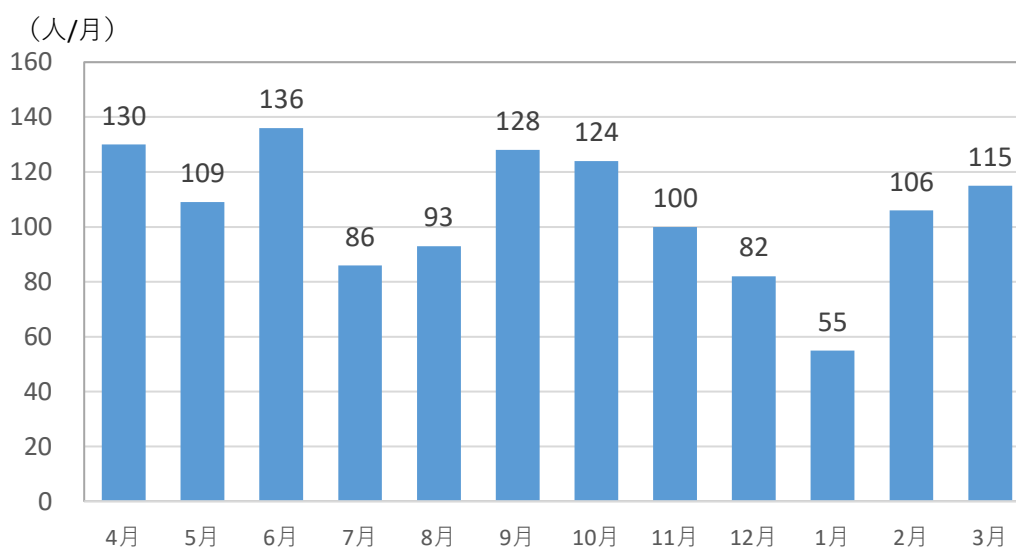


図-2.令和 5 年度の美里バス月別利用者数

2 美里バスの運営経費の推移

- 美里バスの運営経費の推移をみると、運行経費（ランニングコスト）は、導入当初の令和1年度は2,010万円/年要していましたが、令和2年度以降は1,400万円～1,500万円前後で推移しており安定してきています。
- 導入・更新費等は年度により変動はありますが、全体の運営経費は減少傾向にあります。

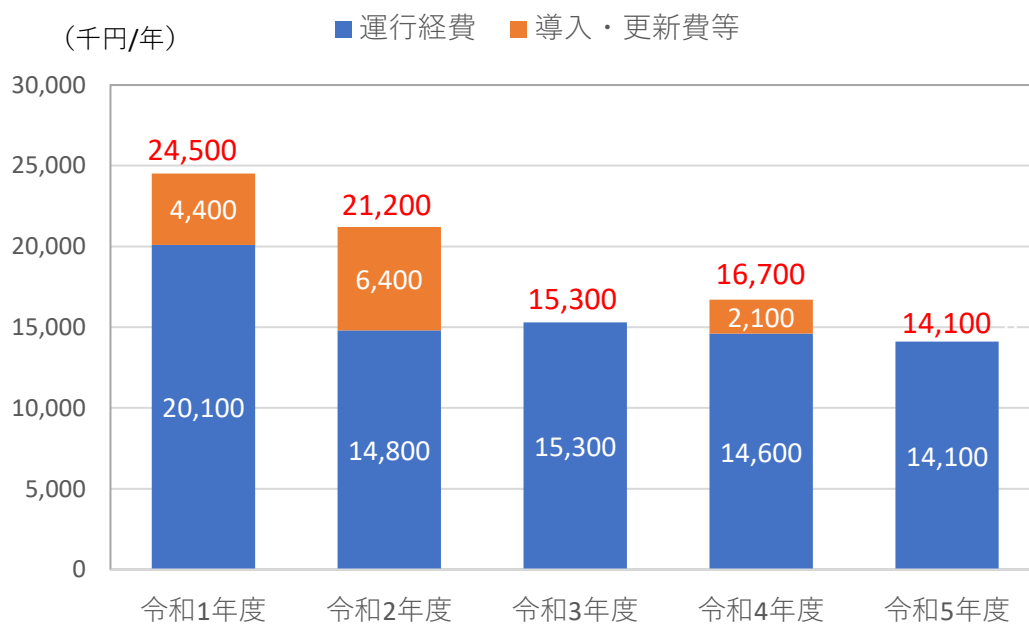


図-3.美里バスの運営経費の推移

3 美里町の地域公共交通の抱える課題

3.1 美里バスに対するアンケート結果

- 昨年度実施した、まちづくりに関するアンケート調査（町内全戸（4,124 戸）配布、1,234 通回収）において、美里バスに関しても調査を実施しました。
- 回答のあった方の内、美里バスを利用しないと回答した方が全体の 98%を占めておりましたが、その理由として 9 割以上の方が「現在は自家用車（家族の運転含む）を利用しているため」と回答されたことから、現状、移動の不自由を感じている方は限定的な状況であると考えられます。（図-4）
- 一方で、10 年後の公共交通の利用意向を尋ねたところ、「公共交通の利用意向なし」の回答が半減しており、潜在的な地域公共交通へのニーズがあるとともに、将来的な自家用車の利用中止を検討している方も増加傾向にあるものと思われます。（図-5）その背景には急速に進行する高齢化があるものと思われます。

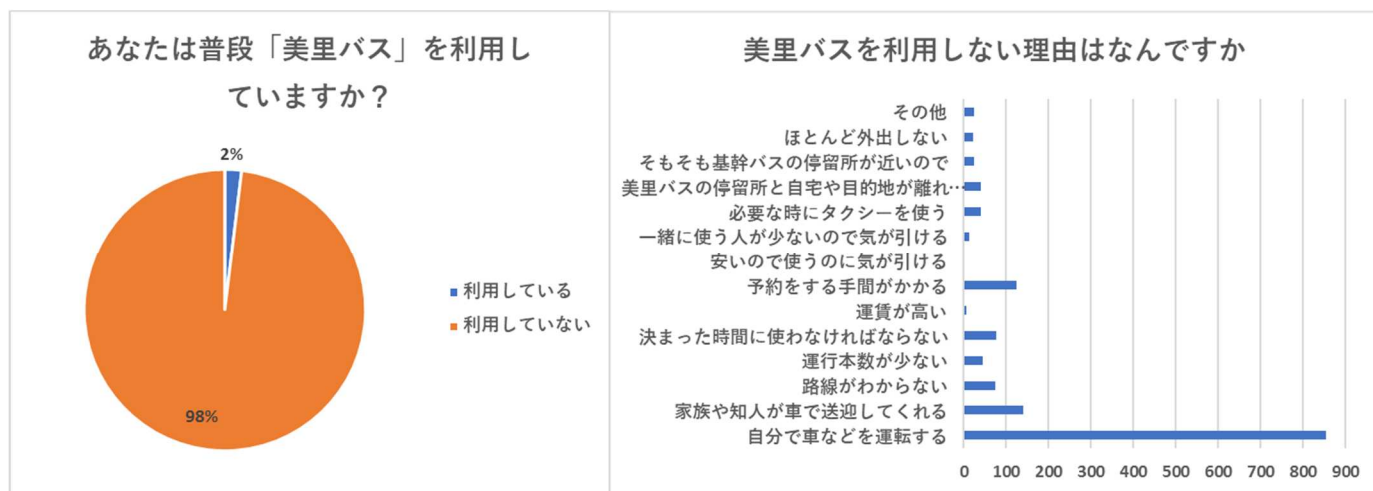


図-4.美里バスの利用状況に関するアンケート結果

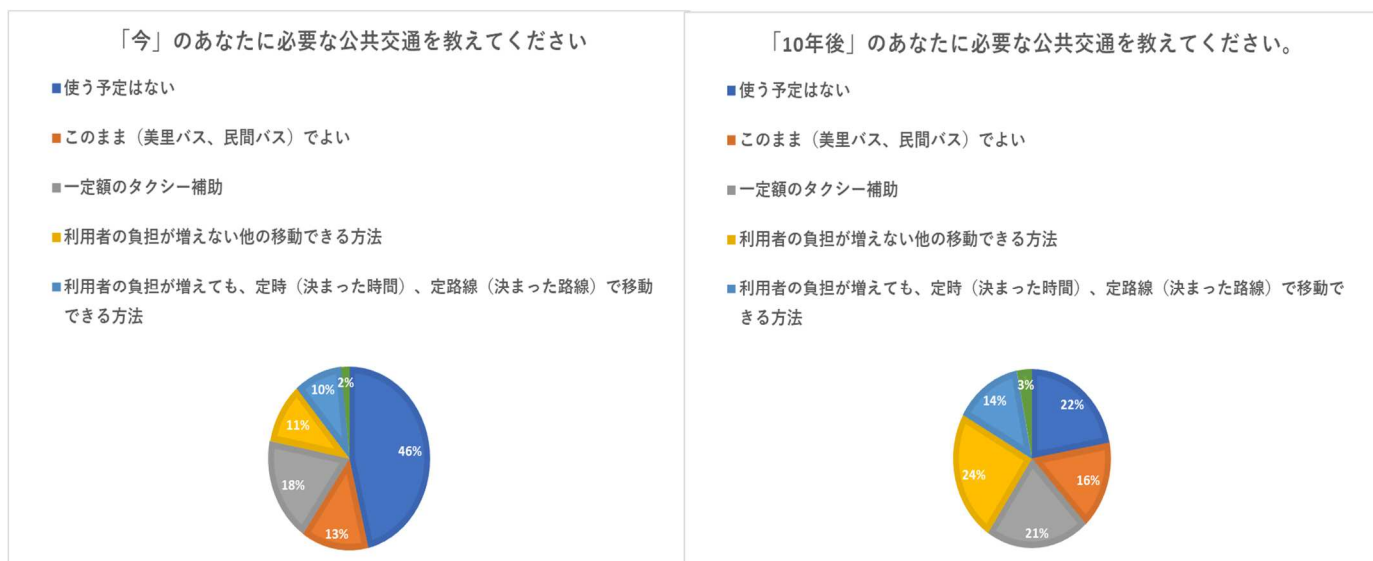


図-5.公共交通の利用意向に関するアンケート結果

3.2 人口減少と地域公共交通の再編

- 高齢化の進行とともに、町の生産年齢人口は今後 10 年間で 1,000 人以上減少する見込みとなっています。（図-6）また、福祉分野においても「移動」が大きな課題となっており、今後の移動サービスについて、分野を横断した検討が必要な状況となっています。（参考資料）
- 地域公共交通の再検討に際しては、利用者増に向けた改良は必要ですが、地域全体の移動需要と地域全体の供給力を行政関係者、交通事業者、住民、その他の関係者の皆様と一体となって明らかにし、持続可能性の確保という観点を加え検討を進めていく必要があると認識しています。
- それらを踏まえ、地域公共交通計画の策定につなげていきたいと考えています。



図-6.美里町の人口推移と予測

【参考資料】福祉課の実施した高齢者に関する課題の洗い出し

ニーズ調査等を踏まえた課題（検討事項）

- ・ニーズ調査の結果より、自動車及びバイク等を運転しなくなった時に困ることの質問に対して日常の買い物が多く、72.5%（1,562名）の方が選択されていた。
- ・地域包括支援センター職員や民生委員、また介護保険策定委員会の中でも高齢者の買い物支援についての課題が寄せられている。
- ・訪問型サービスB買い物支援については、購入希望商品をボランティアに代わりに買ってもらう仕組みのため、本人が店舗に向き選び購入することができない。そのため、買い物代行の利用者も少ない現状。
- ・また今後、地域のサロンや通いの場に参加したいが移動に苦労するため参加を控える人も増えてくるのではと感じている。

これまでの経過で出された課題（サロン事業所及び介護保険事業所・民生委員などから）

移動について	買い物について	住民周知について	メンタルヘルスについて	その他
・一般介護予防事業のサロンや通いの場において、近くの公民館まで移動することができない方が増えている。 ・免許返納により移動手段がない。 ・美里バスが移動手段としてあるが、バス停まで距離がある方や乗継が必要だったり高齢者の方は利用しづらい。 など	・免許返納により移動手段がなくなったことで、買い物に行くことができない。（自由に買い物に行くことができない） ・買い物できる場所も少なくなっている。（お店の減少） など	・町で実施している事業を知らない方が多いのではないかと（介護予防事業やボランティア活動、美里バスなど） ・前期高齢者にとって、サロンや通いの場はもっと年を重ねた高齢者が参加する場所との印象が強い。（前期高齢者の介護予防に対する意識改革） ・前期高齢者が社会参加し、活動できる場があることを知らない？ など	・高齢者の方が気軽に集まり、会話をすることができる場がない。（サロンや通いの場については、体操などがあるため） ・新型コロナウイルス感染症の影響などもあり、近所付き合いが希薄化している。 など	・災害対応 ・配食サービス ・ケアマネジャーがついていない人への支援など など